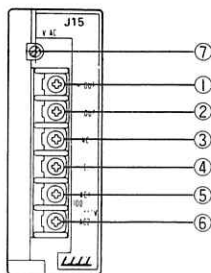


1. 端子配列・ボリューム



- ① + OUT + 出力端子
- ② - OUT - 出力端子
- ③ NC あき端子
- ④ E 接地端子
- ⑤ AC1 } 入力端子 AC85~132V 1φ 48~440Hz
- ⑥ AC2 } 又は DC110~170V
- ⑦ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム

2. 機能説明

■2.1 突入電流

- 入力突入電流防止回路を内蔵しています(AC100V時25A max)。
- 入力にスイッチなどをご使用の場合は、入力突入電流に耐えるものをご使用ください。

■2.2 過電流保護

- 定格電流の105~180%で保護回路が動作し始め、出力ショート状態で定格電流の70~180%になるフノ字垂下型です。
- 過電流となる原因を取り除くと、出力は自動的に復帰します。過電流状態での使用は電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■2.3 出力電圧可変

- 出力電圧可変はボリュームによって可能です。
- 可変範囲は定格出力電圧の±10%です(時計方向で高くなり、反時計方向で低くなります)。

■2.4 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

3. 直列・並列運転

- 直列(図1)及び並列運転はできません。ただし、(図2)に示すような接続は使用可能です。

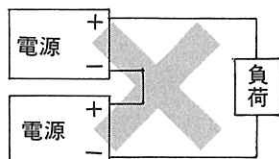


図1

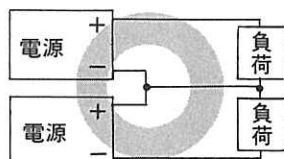
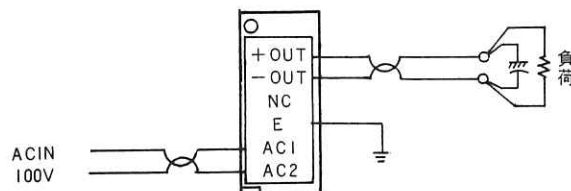


図2

4. 入出力端子への配線

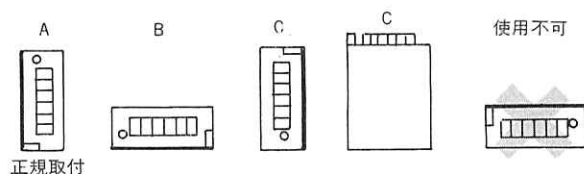
- AC入力線と出力負荷線は分離しツイストしてください。耐ノイズ性が向上されます。



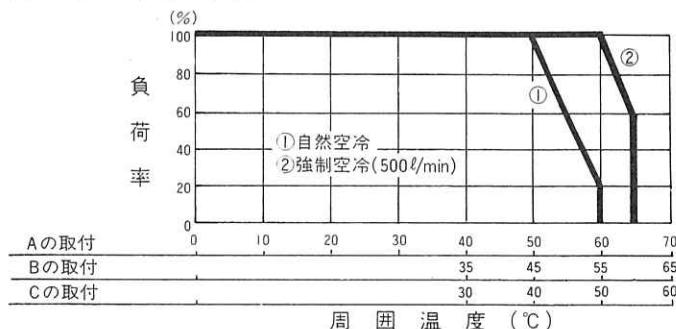
5. 出力ディレーティング

- J15を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用されるときは次の要領でご使用ください。

(1) 取付方法

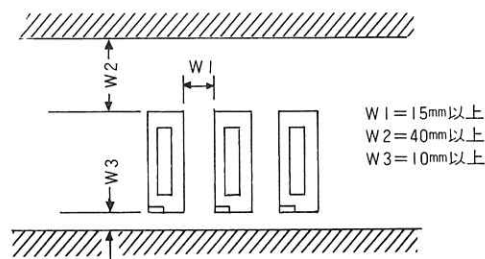


(2) ディレーティング表

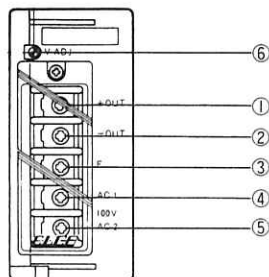


6. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔15mm以上開け、下面から上面への自然対流を考慮してください。



1. 端子配列・ボリューム



- ① +OUT +出力端子
 ② -OUT -出力端子
 ③ E 接地端子
 ④ AC1 } 入力端子 AC85~132V 1φ 48~440Hz
 ⑤ AC2 } 又はDC110~170V
 ⑥ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム

2. 機能説明

■2.1 突入電流

- 入力突入電流防止回路を内蔵しています (AC100V時15A max)。
- 入力にスイッチなどをご使用の場合は、入力突入電流に耐えるものをご使用ください。

■2.2 過電流保護

- 定格電流の105~135%で保護回路が動作し始め、出力ショート状態で定格電流の80~100%になるフノ字垂下型です。
- 過電流となる原因を取り除くと、出力は自動的に復帰します。
- 過電流状態での使用は電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■2.3 過電圧保護

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると過電圧保護回路が動作して出力を遮断します。
- 復帰は、入力電源の再投入で行なえますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

■2.4 出力電圧可変

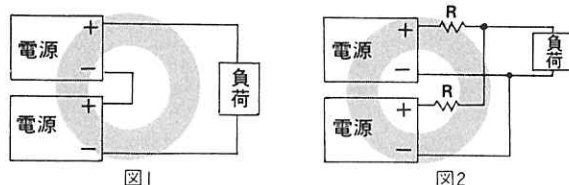
- 出力電圧可変はボリュームによって可能です。
- 可変範囲は定格出力電圧の±10%です (時計方向で高くなり、反時計方向で低くなります)。出力電圧の設定を高くしすぎると、過電圧保護回路が動作する場合があります。

■2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

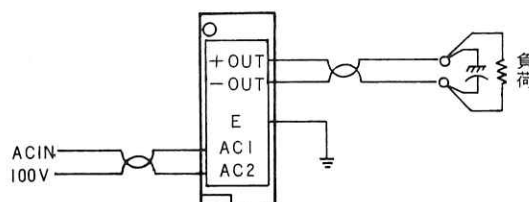
3. 直列・並列運転

- 2台以上の電源を直列運転 (図1) される場合は定格以上の電流が流れないように注意して行なってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転されたい場合には当社へご連絡ください。



4. 入出力端子への配線

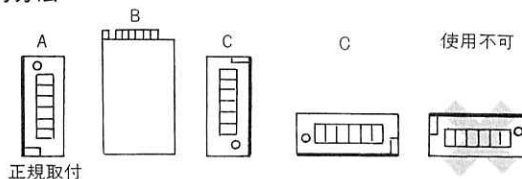
- AC入力線と出力負荷線は分離しツイストしてください。耐ノイズ性が向上されます。



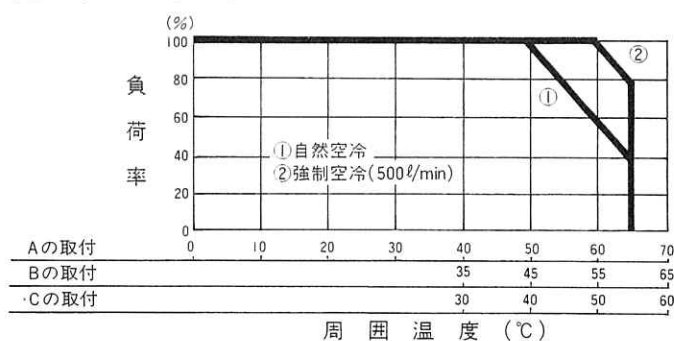
5. 出力デレーティング

- J30を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用される場合は、次の要領でご使用ください。

(1) 取付方法

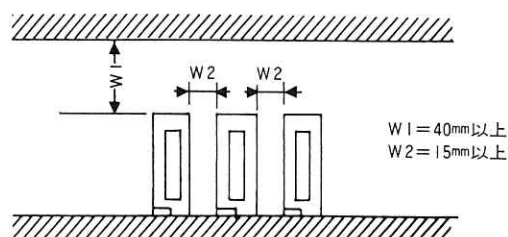


(2) デレーティング表



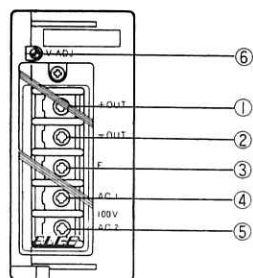
6. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は15mm以上開け、自然対流を考慮してください。



1. 端子配列・ボリューム

- ① + OUT + 出力端子
 ② - OUT - 出力端子
 ③ E 接地端子
 ④ AC1 } 入力端子 AC85~132V 1φ 48~440Hz
 ⑤ AC2 } 又は DC110~170V
 ⑥ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム



2. 機能説明

■2.1 突入電流

- 入力突入電流防止回路を内蔵しています(AC100V時15A max)。
- 入力にスイッチなどをご使用の場合は、入力突入電流に耐えるものをご使用ください。

■2.2 過電流保護

- 定格電流の105~135%で保護回路が動作し始め、出力ショート状態で定格電流の80~100%になるフノ字垂下型です。
- 過電流となる原因を取り除くと、出力は自動的に復帰します。
- 過電流状態での使用は電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■2.3 過電圧保護

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出るとの過電圧保護回路が動作して出力を遮断します。
- 復帰は、入力電源の再投入で行なえますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

■2.4 出力電圧可変

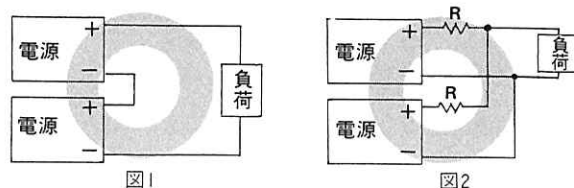
- 出力電圧可変はボリュームによって可能です。
- 可変範囲は定格出力電圧の±10%です(時計方向で高くなり、反時計方向で低くなります)。出力電圧の設定を高くしすぎますと、過電圧保護回路が動作する場合があります。

■2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

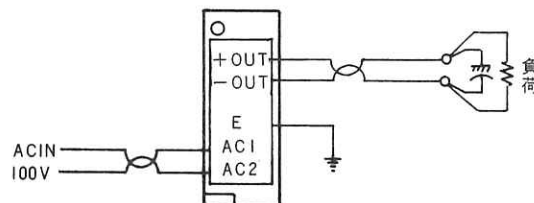
3. 直列・並列運転

- 2台以上の電源を直列運転(図1)される場合は定格以上の電流が流れないように注意して行なってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。



4. 入出力端子への配線

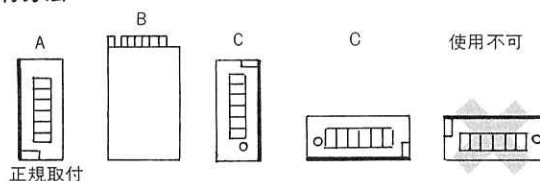
- AC入力線と出力負荷線は分離しツイストしてください。耐ノイズ性が向上されます。



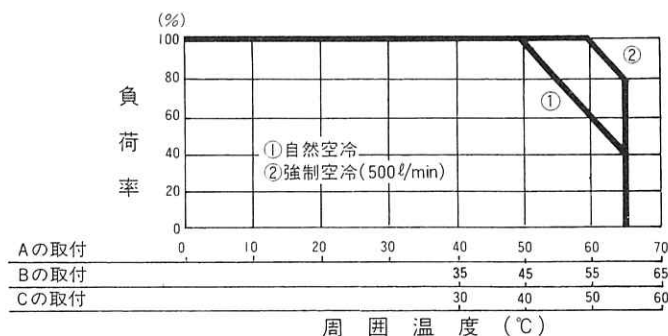
5. 出力ディレーティング

- J50を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用される場合は、次の要領でご使用ください。

(1) 取付方法

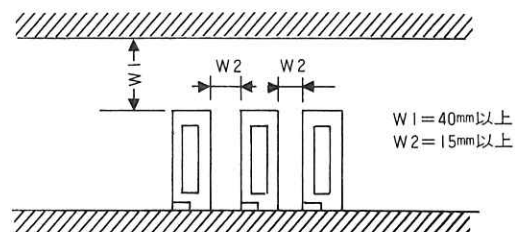


(2) ディレーティング表

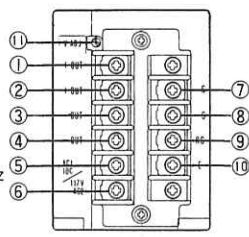


6. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は15mm以上開け、自然対流を考慮してください。



1. 端子配列・ボリューム

- ① +OUT +出力端子
 ② +OUT +出力端子
 ③ -OUT -出力端子
 ④ -OUT -出力端子
 ⑤ AC1 } 入力端子 AC85~132V 1φ 48~440Hz
 ⑥ AC2 } 又はDC110~170V
 ⑦ +S +リモートセンシング端子
 ⑧ -S -リモートセンシング端子
 ⑨ RC リモートコントロール端子
 ⑩ E 接地端子
 ⑪ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム
- 

2. 機能説明

■2.1 突入電流

- 入力突入電流防止回路を内蔵しています(AC100V時20A max)。
- 入力にスイッチなどをご使用の場合は、入力突入電流に耐えるものをご使用ください。

■2.2 過電流保護

- 定格電流の105~135%で保護回路が動作し始め出力ショート状態で定格電流の80~100%になるフノ字垂下型です。
- 過電流となる原因を取り除くと、出力は自動的に復帰します。
- 過電流状態での使用は電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■2.3 過電圧保護

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると過電圧保護回路が動作して出力を遮断します。
- 復帰は、入力電源の再投入で行なえますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

■2.4 出力電圧可変

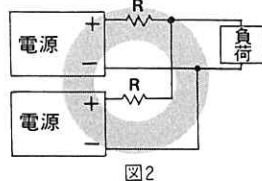
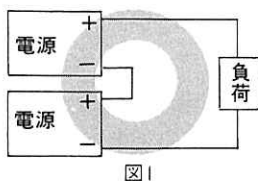
- 出力電圧可変はボリュームによって可能です。
- 可変範囲は定格出力電圧の±10%です(時計方向で高くなり、反時計方向で低くなります)。出力電圧の設定を高くしすぎますと、過電圧保護回路が動作する場合があります。

■2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行なうときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

3. 直列・並列運転

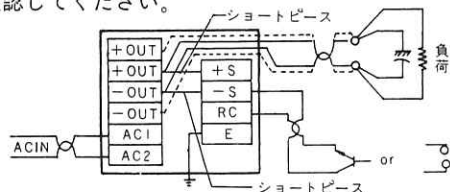
- 2台以上の電源を直列運転(図1)される場合は定格以上の電流が流れないように注意して行なってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。



4. 入出力端子への配線

(1) リモートセンシングを行わない場合

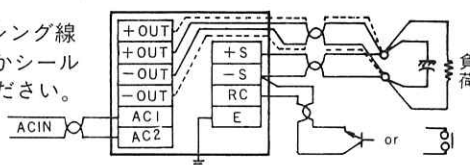
- ショートピースで+OUTと+S、-OUTと-Sが各々短絡されていることを確認してください。



(2) リモートセンシングを行なう場合

- ショートピースをはずしてご使用ください。
- 1端子から取り出せる電流は15Aまでですので、15Aを超えるものについては2端子から取り出してください。
- AC入力線と出力負荷線は分離しツイストしてください。耐ノイズ性が向上されます。
- 出力負荷線は太く短かく配線し、ラインドロップは0.3V以下にしてください。

- リモートセンシング線はツイストするかシールド線をご使用ください。



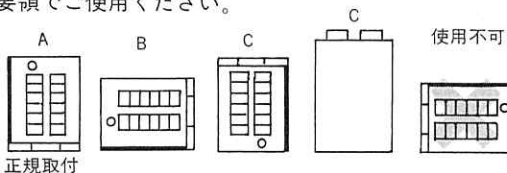
5. リモートコントロール

- AC入力を入切することなく、電源出力を制御できます。
- RC端子と-S端子を短絡すると出力ON、開放するとOFFとなります。
- TTL、IC、トランジスタ、及びリレー接点でも制御できます。

6. 出力デレーティング

- J100を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用される場合は、次の要領でご使用ください。

(1) 取付方法



(2) デレーティング表



7. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は20mm以上開け、下面から上面への自然対流を考慮してください。

